

曲水の宴

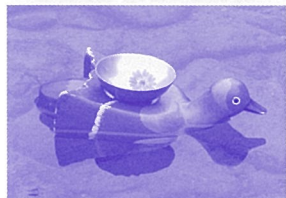
令和8年 歌題^{ひかり}◆光



歌題披露(十二単)



延年の舞・若女



羽觴(うしゅう)

曲水の宴は、「きよすいのえん」「めぐりみずのとよのあかり」あるいは「流觴曲水」ともいわれ、奈良・平安時代に盛んに行われた歌遊びです。毛越寺では古い文献に沿って「ごくすいのえん」と呼んでいます。

山水を池に取り入れるために造られた曲がりくねった水路(曲水)のことを遣水^{やりみず}といいます。この水路について、平安中期の作庭方法論書『作庭記』には「東より南に迎えて西に流すのを順流とす」とあり、毛越寺の遣水も当に作庭記に沿ったものです。

この遣水は、昭和58年度毛越寺庭園発掘整備事業の成果として発見されたもので、60年度に遺跡整備復元が完了、「流し初め」が催されました。続く61年度、水源となる「滝つ瀬」が発見されその価値評価ともいよいよ高いものとなりました。遣水の流れには「底石」「水切の石」「つめ石」「横石」「水越し石」などが作庭記に忠実な形で発掘され、全長80mと全国最大規模で完全な遣水の姿を優美に見せています。

毛越寺の曲水の宴は、この水辺で5月の第4日曜日に行われ、男性は衣冠^{いかん}や狩衣^{かりぎぬ}、女性は桂^{うちぎ}、十二単^{ひとえ}など平安貴族さながらの装束を身にまとして参宴します。

歌題披露のあと雅楽『催馬楽^{さいばら}』に合わせ重要無形民俗文化財の毛越寺延年の舞「若女」が奉納されます。そして杯^{うしゅう}を乗せた羽觴^{うしゅう}が遣水に流されると、水辺の歌人がそれぞれ歌題に従って和歌を詠み流れてくる杯^{うしゅう}を傾けます。最後に講師^{こうじ}が歌を披講し、宴が終了します。



遣水



一觴一詠
羽觴の流れに合わせて歌を詠み、短冊にしたためる

進行と次第

- ◎ 本堂参拝 …… 正午
- ◎ 曲水の宴 …… 午後1時開始
- ◎ 水辺着座 …… 装束の説明
- ◎ 開宴の辞 …… 主催僧
- ◎ 歌題披露 …… 十二単、歌題を読み上げる
- ◎ 催馬楽奉奏^{さいばら}
- ◎ 若女の舞^{じやくじょ} …… 催馬楽にあわせ舞う
- ◎ 流觴曲水^{りゅうじょうくすい} …… 羽觴を流す
- ◎ 一觴一詠^{いつしやういちえい} …… 羽觴の流れるのにあわせ歌を詠み、それを短冊にしたためる
- ◎ 御酒拝戴^{ごしゅはいたい} …… 童子の運んでくる羽觴より盃をとり、御酒を飲む
- ◎ 披講 …… 講師、正面席に着き披講する
- ◎ 終宴の辞 …… 主催僧
- ◎ 退座

参宴者とその装束

- ◎ 披講
 - 宮中歌会始披講会会員 近衛 忠大氏(衣冠)
 - 宮中歌会始披講会会員 園池 公毅氏(衣冠)
- ◎ 歌人
 - 岩手県南広域振興局長 菅原 健司氏(衣冠)
 - 岩手県・一関市 伊藤 英伸氏(衣冠)
 - 岩手県・滝沢市 田浦 将氏(狩衣)
 - 岩手県・一関市 小山 尚孝氏(狩衣)
 - 岩手県・盛岡市 藤井 永子氏(桂)
 - 岩手県・盛岡市 くどうれいん氏(桂)
- ◎ 歌題披露
 - 岩手県・花巻市 松田 桜織氏(十二単)
- ◎ 楽人
 - 東京・小野雅楽会(直垂)
- ◎ 衣紋方 京都 黒田装束店
- ◎ 協力 装道礼法さの学院岩手県認可連盟



曲水の宴

特別史跡・特別名勝

平泉 ^{もろ}毛越寺 ^{つし}

岩手県平泉町大沢 TEL 0191-46-2331
<https://www.motsuji.or.jp/>
(一社)平泉観光協会 TEL 0191-46-2110



5月24日(日)
午後1時開宴

令和8年 歌題◎「光」

ひかり
小雨決行。雨天時は本堂にて行いますが、観覧人数に限りがございます。予めご了承ください。